



新年度へ第27回「定期総会」開催！

“国交正常化50周年－共感の輪を広げよう”

富谷市日中の定期総会が6月19日、町上会館で行われました。初めに中山耕一会長から、国際的な相互理解が大切な時代にあって、ますます我々の活動が大事である、と日頃の活動に感謝する旨、開会の挨拶があり、続いて来



写真上から若生市長、青柳議長、朴会長



賓の若生裕俊市長は“青年の船”で中国を訪問した過去に触れ、50周年の節目の本年、民間レベルでの交流に期待を寄せました。また青柳信義・市議会議員、県華僑華人女性聯誼会・朴仙子会長から祝辞をいただきました。

県日中友好協会・佐々木謙会長(写真)からは「国交正常化50周年を迎えるものの、日中の関係は複雑にまた難しくなった、と実感する。しかし隣国中国と心を通じ合い、平和な関係を作っていきたい。我々の活動は微力であるかもしれないが、志が大事だと思います。政治的な事象とは距離を置いて、中

寅(トラ)の諺

「虎もわが子を食わぬ」－猛獣ですらわが子を可愛がる事は並大抵ではない。「虎は子を思うて千里を駆ける」もある。愛情は深い。はたして児童虐待の人間は？

「前世は中国に居た……」

理事 齋藤 睦

自分は若い頃から目の前に迫る高い岩場を前にすると、心が躍り、何とも言えぬ懐かしい気持ちになり、その場を離れがたい気持ちとなります。

何度かそんな経験を繰り返しているうちに自分が出した結論は“俺は前世では中国、それもかなり南の方に住んで居た”。いつかその場所を探しに行ってみたく思っていた頃、富谷日中と出会い植林ツアーにも行き、逆の北の洮南市で美味しいお酒“洮南香酒”に出会いました。その後、徐福の話を入耳に入れ、本も購入し徐福にはまりました。秦の始皇帝の命を受けて不老長寿の薬を求めて、日本に渡り住み着いた。そして神武天皇になった、というそんな話だが、徐福を祭った神社など当時は20か所、今では60か所を超えている。が、具体的な史実は全く無い。あえなく挫折。でも今は少し見方を変えています。奈良時代以降、中国から徐福の足跡を求め、何かを感じた所の人々に徐福を祭るように勧めた、のではないかと。

私は今、富谷茶復興プロジェクトに参加、4年になります。紀元前2700年、中国・神農帝の時代に発見され、平安時代に日本に渡来、江戸時代から今の煎茶ができたようです。中国には緑茶、白茶、黄茶、青茶、黒茶、紅茶と多種ありますが、自分が知っているのは緑茶と紅茶だけ。富谷茶と関わっている間にこれらのお茶を飲んでみたい。それと徐福については一生の楽しみ、ロマンです。前世の里の訪問は実現できるのかな？

※「お茶について色々教えてくれる人の事を？」答え次号

国の人と仲良くしていこうという、理解と共感の輪を広げていきたい。継続は力であり、富谷日中の一層のご尽力をお願いしたい」と期待を寄せました。

つづいて齋藤睦理事を議長に議事に入り、2021年度活動報告と22年度活動計画(水戸雄二理事長から)、決算及び予算案(板垣みよ子事務局次長から)、会計監査報告(伊豆田待子監事から)が承認されました。役員人事では中山会長以下、重任となりましたが、小野寺清伍理事が勇退され、新たに越川富彦理事が承認されました。越川理事の挨拶の後、松田勝幸副会長は、重ねて来賓に感謝するとともに「健康に留意しながら、日中の友好交流に前進していきたい」と呼びかけ、閉会となりました。

諸準備に携わっていただいた役員の皆様、ありがとうございました。

§ 資料 § なお都合で欠席された会員の皆様には後日、総会資料と会費納入のご案内をお届けいたします。

県女性委員会で総会行う

6月17日に仙台国際センターで、県女性委員会総会が行われ、富谷市日中からも5名が参加。席上、岩井紘子委員長の勇退により、当会理事の水戸憲子さんが新たに委員長に就きました。